



「2025年度 総合車両センター業務量等について」 提案を受ける！

東京地本は表題の提案を受け、東京総合車両センターに関して以下の議論を行いました。

○定期検査両数(西エリア)

1,519 両 ※昨年比▲55 両

○箇所体制 ※カッコ内は昨年比

管理変形等	41	(±0)
管理交代	2	(±0)
一般変形等	293	(▲4)
一般交代	8	(±0)

○主な改造工事件名

E231 系 機器更新Ⅲ期工事(国府津)	4編成
E235 系 長編成ワンマン・ATACS 改造(山手)	11 編成
E233 系 長編成ワンマン・ATACS 改造(さいたま)	10 編成
E233 系 長編成ワンマン改造(川越)	6 編成
E233 系 ホームドア改造(国府津)	8 編成
E233 系 千葉地区転用改造(さいたま・豊田)	4編成
E233 系 機器更新工事(松戸)	5編成

○主な提案時のやり取り

組合) 一般変形▲4となった根拠は何か。

会社) 業務量は、入場両数と検査の種別に応じて変わる。今年度のトピックとして、最も効いたのは装置保全の減と、山手線の E235 系の C 保全入場が落ち着いたことによる C 保全の減である。

組合) りんかい受託が、2025 年度はゼロなのはたまたまか？

会社) その通り。新車投入も長いスパンとなる。

組合) E233 系の千葉地区転用改造(さいたま、豊田)については、どのようなものか？

会社) すでに社員周知したもの。車両が余っている。車内案内関係や保安装置の改造などがある。

組合) 周期延伸の効果は出ているのか？ 主電動機の気吹きなどは軌道にのっているか？

会社) かなり効果は出ているが、2027 年頃で落ち着く。気吹きも当初は苦労があったが、現在は順調である。

組合) 中長期的な入場両数の凸凹の傾向はどうか？

会社) 現在の検査両数は少ない(底)状況。全社的な傾向で 2029 年頃に定期検査の両数の山が来る。分散させるために前倒しなどを検討していく。

組合) 定期検査以外の入場を伴う改造工事などについてはどうか？

会社) 山手線 E235 系のワンマン改造などが通年ある。それ以外は改造工事を定期検査併施で行うものが多い。

組合) 入場両数に応じて、落成検査の人工(出面)も増減するのか？

会社) 落成検査は計画(間接)部門の扱いであり、変形等に含まれるが、入場両数とは関係ない。

組合) 変形等には、技術科などのフレックス者も含むのか？

会社) フレックス対象者も含まれる。

組合) 中央快速線の 12 両編成は、新系列棟で作業の対応ができるのか？

会社) 新系列棟が 11 両対応であり、工程や入線の工夫で対応できるよう検討している。試運転時の引上げ線の有効長に課題があり、分割と組成が発生する。数年前から検討は進めてきた。

組合) E233 系の機器更新の考え方はコロナ禍とアフターコロナで変化したのか？追加の臨時入場があるのか？

会社) 一部機器で2重系を部分更新とする考えは変わっていない。追加施工のための臨時入場も発生しない。

安全・品質・働きがい担保できる職場を求めていこう！